

予 算 要 求 資 料

令和3年度9月補正予算 支出科目 款：衛生費 項：医務費 目：医療整備対策費

事業名 ドクターヘリ導入事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 医療整備課 医療整備係 電話番号：058-272-1111 (内 2588)

E-mail：c11229 @pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 7,475千円 (現計予算額：290,412千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	290,412	124,706	0	0	0	0	804	0	164,902
補 正 要求額	7,475	19,337	0	0	0	0	0	0	△11,862
決 定 額									

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・岐阜大学医学部附属病院を基地病院としてドクターヘリの運航を行い、救急患者の早期治療の着手や二次医療圏を超えた広域的な患者搬送により、地域医療格差の是正を図る。

(2) 事業内容

- ・ドクターヘリ導入事業費【医療提供体制推進事業費補助金】
ドクターヘリを用い救急医療を提供する基地病院に対し、その費用について補助を行う。(ドクターヘリ運航経費、搭乗医師・看護師経費、運航連絡調整員経費、ドクターヘリ運航調整委員会開催経費)
- ・ドクターヘリ導入事業費
ドクターヘリの夏季(4月～8月)の運航時間延長に伴い、搭乗医師・看護師に支給する割増賃金について補助を行う。
- ・今回、国交付要綱改正により基準額が増額となったため、増額補正する。

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・ 県の救急医療対策として必要な事業であり、その運航経費等について、県が基地病院である岐阜大学医学部附属病院に対し補助すべきものである。

(4) 類似事業の有無

- ・ 全国 44 道府県で 54 機のドクターヘリが導入されている。(R3.5 現在)

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	7,475	ドクターヘリ導入事業費補助金
合計	7,475	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・ 第7期岐阜県保健医療計画

第3部－第2章－第6節救急医療対策－7今後の施策

救急患者の早期治療着手と、広域的な患者の搬送により地域医療格差の是正を図るため、岐阜大学医学部附属病院を基地病院とするドクターヘリの運航を継続します。

(2) 国・他県の状況

- ・ 国庫補助事業として、導入各県が基地病院に対し補助している。

(3) 後年度の財政負担

- ・ 令和4年度以降も継続する。

(4) 事業主体及びその妥当性

- ・ 県内で唯一高度救命救急センターを有し、県の救急医療の中核をなし、充実した人員体制を考えた場合、岐阜大学医学部附属病院以外ありえない。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

救急患者の早期治療の着手と、広域的な患者の搬送により地域医療格差の是正を図るため、岐阜大学医学部附属病院を基地病院とするドクターヘリの運航を継続する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 <small>（前々年度末時点）</small>	目標	達成率
県内二次医療圏内への出動率（％） （出動医療圏/県内全二次医療圏）	0% (H21)	100% (H29)	100% (H30)	100% (H31)	100% (R3)	％

○指標を設定することができない場合の理由

--

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

ドクターヘリを用い救急医療を提供する基地病院に対し、その費用について補助。（ドクターヘリ運航経費、搭乗医師・看護師経費、ドクターヘリ運航調整委員会開催経費）

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

令和2年度ドクターヘリ出動実績 392件

（現場救急 242件、病院間搬送 88件、出動後キャンセル 62件）

令和元年度ドクターヘリ出動実績 525件

（現場救急 284件、病院間搬送 159件、出動後キャンセル 82件）

平成30年度ドクターヘリ出動実績 563件

（現場救急 287件、病院間搬送 188件、出動後キャンセル 88件）

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い	
(評価) ○	救急患者の早期治療の着手と、広域的な患者の搬送により地域医療格差の是正を図るための手段として必要性が高い。出動数も運航開始以来、順調に推移し、昨年度は年間 500 件以上の実績となっており、必要性は高い。
・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価) ○	広大な面積を有し、山間地が多く、加えて、医療資源が偏在している本県においては、ドクターヘリによる救急医療体制の整備は有効である。
・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある	
(評価) ○	ドクターヘリを用いた救急医療活動について、岐阜大学医学部附属病院が定期的な症例検討会を開催し、メディカルコントロール体制に基づいた事後検証を行い、より適切な救急医療体制の構築を図っている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 重複要請時や、大規模災害時に対応するため構築した、ドクターヘリの出動に関する広域連携体制の運用について、協議会を開催し理解を深める必要がある。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 救急患者の早期治療の着手と、広域的な患者の搬送により地域医療格差の是正を図るため、岐阜大学医学部附属病院を基地病院とするドクターヘリの運航を隣県との広域連携も視野に入れながら継続する。
